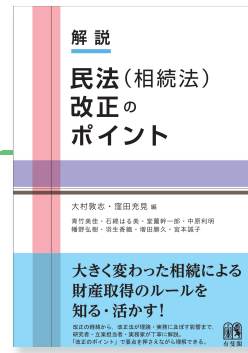


解説 民法(相続法) 改正のポイント

大村敦志・窪田充見 編

2019年8月発売 / 258頁 / 本体1900円+税
四六判 / 並製



編集
担当者
から

本書は、平成30年相続法改正のポイントを、立案担当者・研究者・実務家が、改正に至るまでの背景・経緯から、改正過程でどのような議論がなされたのか、最終的にどのような内容の改正となったのかまで、丁寧に解説しています。

改正法の内容については、主に第2章で、項目ごとに節を分けて解説しています。各節の冒頭で、それぞれの改正内容の要点が「改正のポイント」としてまとめられており、ここで簡単に概要をおさえたうえで、本文を詳しく読むことで正確な理解ができるように書かれています。なぜ変わったか、どう変わったかが分かるので、すでに授業などで相続法について学んだ方が、知識のアップデートを図る目的で読まれる本としても最適です。

また、第3章では、この改正が実務にどう影響するかを、弁護士と銀行法務担当者にご執筆いただきました。日々の業務でどのようなことに注意すべきか、実務に携わる方々にも手にとってお読みいただければと思います。(わ)

Index



相続法改正について、正確に理解し活用するために必携の一冊。

第1章 改正の背景

第2章 改正法の概要

第1節 配偶者短期居住権 / 第2節 配偶者居住権 / 第3節 配偶者の貢献 / 第4節 遺産分割前の預貯金債権の行使・一部分割・分割前処分 / 第5節 遺言制度に関する見直し / 第6節 遺留分制度 / 第7節 権利の承継・義務の承継 / 第8節 遺言執行者がある場合の相続人の行為の効力 / 第9節 相続人以外の者による貢献

第3章 実務への影響

第1節 遺言執行の実務への影響 / 第2節 銀行取引実務への影響

第4章 改正論議の検証と改正法の評価

第5章 改正相続法の位置づけ